

第18回東西四大学合唱演奏会 【1969年(昭和44年)6月21/22日】 東京文化会館



関西学院大学グリークラブ

組曲 「雨」

指揮 北村 協一

作曲 多田 武彦

- | | | |
|-------------|----|-------|
| 1. 雨の来る前 | 作詞 | 伊藤 整 |
| 2. 武蔵野の雨 | 作詞 | 大木 惇夫 |
| 3. 雨の日の遊動円木 | 作詞 | 大木 惇夫 |
| 4. 十一月に降る雨 | 作詞 | 堀口 大学 |
| 5. 雨の日に見る | 作詞 | 大木 惇夫 |
| 6. 雨 | 作詞 | 八木 重吉 |

曲目解説

関西学院グリークラブ

男声合唱曲「雨」について

多田 武彦

第1曲の「雨の来る前」は昭和35年度合唱コンクール課題曲入賞作品であるが、かねてから、これに数曲を続けて組曲をしたいと思っていた。したがって、第1曲「雨の来る前」と第2曲「武蔵野の雨」によって、まず自然現象としての雨を捉え、第3曲「雨の日の遊動円木」では、人のいない雨の日の児童公園の冷たい風情の中に人間の孤独感や悲哀感をにじませ、第4曲「11月にふる雨」では、突き刺すようなモチーフにより悲哀感を盛りあげた、そして第5曲「雨の日に見る」では、冬の雨の日の冷気を通して、孤独感や悲哀感にうちひしがれた主人公が、庭に見事にみのったザボンの実（ある人にとっては、それは手のとどかないところにいる美しい恋人であり、ある人にとっては、それは到底実現しそうにもない輝かしい理想でもあるが）と対峙する姿を浮彫にし、第6曲「雨」では、こうした苦しみや悩みから昇華し切った主人公が、溢れ出ようとする涙をおさえて、担々と歌う曲想とした。

この組曲は、はからずも、最近、特に、多くの大学のグリークラブの諸君に共感をよんでいるが、私に対しても、「いつでも作曲の筆を折っていい」と思わせたし、とりわけ、第6曲「雨」は、私の臨終における鎮魂曲として、私の心の奥深くに、刻みこまれてしまった。